

シンポジウム



御田祭 (美郷町)

シンポジウム

《コーディネーター》

株式会社テレビ宮崎 編成制作局 アナウンス部 部長 高橋 巨典

《シンポジスト》

発表主題	所属及び役職	氏名
健全な心 健康な体を育むための生活 ～脳科学からの情報を根拠に - 寝・食・遊 - を見直す～	宮崎県立みやざき中央支援学校 指導教諭	足立 明彦
“子どもへの熱い思い”が つくりだす連携 ～性に関する健康支援活動から～	宮崎県立看護大学 教授	長 鶴 美佐子
心と体を育む食卓 ～弁当の日を通して学んだこと～	ひろがれ弁当の日 in 宮崎実行委員会 代表	船ヶ山 清史
学校安全の基礎を考える ～現在の取組を振り返り、 進歩させるために～	NPO 法人 みんなのくらしターミナル 代表理事	初鹿野 聡
宮崎県立高等学校PTA活動における 子どもたちの健康教育への取組	宮崎県高等学校PTA連合会 顧問	久 保 裕

シンポジウム

1 質疑応答

[質問1] 足立先生の発表について

家庭・学校・地域が連携を行う時の情報の共有化についてどう考えるか。

(高橋)



【回答】

情報を共有するのは連携ではない。連携の前提である。連携をするにあたって不可欠なものである。その子の情報をわかった上で取組や対応を共有していくことが大事だと思う。

(発表者 足立)

[質問2]

子どもの頃のネット依存が他者へ向くことのリスクは、生涯にわたって背負うことになる。これについてどう考えるか。

(初鹿野)

【回答】

とても大きな問題。今の子どもたちは何歳でスマホデビューするのか。若い母親は赤ちゃんを抱っこしてスマホを見ている。泣いている赤ちゃんの背中をとんとたたたくことでセロトニンがでる。セロトニンがでることで穏やかになる。オクストシンもどんどん出てくる。穏やかになって泣き止む。声をかけることで脳にブレーキがかかって寝る。というアナログの関係で親子が育つ。今は、アプリを使って泣き止ませる。世の中から変えていかないと大変なことになる。

(発表者 足立)

母乳をやるときに目を合わせることで、赤ちゃんはお母さんが信頼できる相手だということを授乳する場面から学んでいる。授乳中のスマホ

はやめるようにお願いしている。

(長鶴)

学校現場が科学的根拠を発信していくことが大切だと思う。教職の経験も大事だが、それだけに頼りすぎる現場は危険だと思う。多様化した社会に対応していくためには新しい情報を取り込んでいくことが大切だと思う。

(発表者 足立)

[質問3] 長鶴先生の発表について

先生と学校側のコミュニケーションがしっかりとれ、いい講演ができるということについて教えていただきたい。

(高橋)



【回答】

お互いが「子どもたちのために何かしたい」という子どもへの思いが共有できると、コミュニケーションがとれる。

(発表者 長鶴)

[質問4] 船ヶ山先生の発表について

父親として保護者としてのコンセプトがしっかり伝わる活動をされていると思うがどうか。

(高橋)

【回答】

何のためにやるのかということが大切である。根拠が問われる。問題の核になっているのは「食」であるが大切にされていない。アナログ、デジタルの問題やコミュニケーション不足などについて「弁当の日」が解決の手段になると思う。

(発表者 船ヶ山)

[質問5]

「弁当の日」の発展型についてはどうか。

(高橋)

【回答】

「弁当の日」の本当の意味を社会全体で知ることが大切。特別なことではなく、子どもが台所に立つことが普通のことになってほしい。

(発表者 船ヶ山)



[質問6]

スーパーなど企業を巻き込むことも考えられるか。

(高橋)

【回答】

ながの屋という企業は「弁当の日」をツールとして本当の意味を伝えながら生産者と消費者をつなぐ活動など行っている。

(発表者 船ヶ山)

[質問7] 初鹿野先生の発表について

安全ということについて特別な行動でなく暮らしの中の行動が大切であるが、それについてはどうか。

(高橋)



【回答】

安全、命にリハーサルはない。命の大切さが

伝わっていない。切実さが無い。そのことを伝えるための特別な活動をしなければいけない。安全も意識して考えないといけない。

(発表者 初鹿野)

[質問8]

安全な環境よりも安全かどうかの判断能力ということか。

(高橋)

【回答】

大人になっても回避できたり、犯罪を犯さないためには子どものときからしっかりした生活ができていることが大事。

(発表者 初鹿野)

[質問9]

判断能力を養う五感とはどんなものか。

(高橋)

【回答】

いつもと何か違うという感覚を育てることが大切。この感覚はアナログの場、不便さ、人と接することで育っていく。しかしこういうことが育ちにくくなっている。感じとる力を育てなければいけない。

(発表者 初鹿野)

[質問10] 久保先生の発表について

高校生になると時間がとれないというジレンマがあるのではないか。

(高橋)

【回答】

家庭で取り組むべきことを学校が取り組まなければならなくなっている。これが家庭でできれば問題も少なくなってくる。家庭教育が大切である。

(発表者 久保)

[質問11]

保護者間の温度差を感じることもあるか。

(高橋)



【回答】

子どもがスマホやネットなど使えば親の監督下、監視下で子どもが生活しているのではないという認識を親も持つべき。スマホやネットのことについては小学校のときからしっかり教えておくことが大切である。子どもをしっかり守れるのは親である。

(発表者 久保)

[質問12]

早い段階で警鐘を鳴らすにはPTAの連携が必要ではないか。

(高橋)

【回答】

PTAの連携や他団体との連携も大切である。少しでも早く取組を起すことが必要である。技術がどんどん進むが、親もその内容に関心、知識をもつことが必要である。子どもに歩み寄って見守ることが大事である。

(発表者 久保)



[質問13]

今、気になるのは子どもの食事のしかたである。家庭の食生活の習慣が子どもを通して次世代につながっていくので、子どもの食事のしかたはとても大切であるが、学校が取り組むとす

ればどういふことがあるか。

(沖縄県 久米島高 嶺井)

【回答】

「弁当の日」が解決できる。なぜ「弁当の日」があるのか先生がきちんと伝えれば、子どもはチャレンジして、やればできることがわかる。それが貴重な体験になる。家庭に斬り込んでいくには有効な手段である。

(発表者 船ヶ山)

家庭や学校で足りない部分を補うのに中山間地域との交流事業など親子単位で参加することも意義がある。不便な中山間地域で食べたり、作業したりすることで他の地域とのつながりに目を向けることができ、そういうことが解決のヒントにもなる。

(発表者 初鹿野)

今の子どもたちは判断はできるが、判断力がない。判断したとおりに行動できない。判断力は総合力である。それを付けるには学校の中で、親子が時間と場所と中身を共有し、話題が共有できるようにするのがよい。そのひとつの手段として「弁当の日」の取組はすばらしい。

(発表者 足立)

[質問14]

ゲーム、テレビは脳を発達させるか。

(熊本県 久米小 鮎田)

【回答】

ゲームをしたり、テレビを見たりすることは受信である。受信では脳は発達できず、脳活動は停止する。発信でないと発達できない。成長が滞るといふふうに考える。

(発表者 足立)



[質問15]

ゲームでの脳トレはどうか。

(熊本県久米小 鮎田)

【回答】

新しいチャレンジでは脳細胞を総動員して使うのでよいが、慣れてくるとパターンとしてただ処理するという形になる。右脳で処理してしまう。それでは発達できない。

[まとめ]



脳は命であり、心そのものである。教育において科学的視点はどうかという意見もあるが、大切なことである。何かを学ぶために体験以上の良策はない。今日は体験の重要性を感じた。

(足立)



性は大切なことであり、子どもたちにしっかり伝えることが必要である。組織づくりをして、何のためにやるかをはっきりさせると道が開けてくると思う。

(長鶴)



「弁当の日」の担当の先生が一人で大変な思いをされていることがある。先生方には連携して取り組んでほしい。わたしたちは橋渡しができるとうい。

(船ヶ山)



人と接し、コミュニケーションをとり、感じとる心を育てることが大切である。そういう経験を意識してさせる。

(初鹿野)



理論より実行することの大切さがよくわかった。保護者として家庭教育の原点に立ち戻って考えていきたい。

(久保)